

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 6/11 日付 ベルブホール (ベルブ永山5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

Happy Hour ハッピーアワー

(濱口竜介監督)

上映スケジュール

全317分

※途中休憩あり、各部入替制

第1部 13:30 — 15:16

第2部 15:30 — 17:06

第3部 17:30 — 19:25

[チケット]

前売 3,000円 (通し券/一般のみ)

当日 3,500円 (通し券/一般のみ)

2,000円 (通し券/学生)

各部(1回)券 1,200円 (共通)

(TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日2,000円(通し券))

☆ハッピー割

女性4人での来場で(当日)各3,000円
(通し券)

*全席自由席・各回入替制

*開場は各回15分前



© 2015 神戸ワークショップシネマプロジェクト

わたしが、わたしらしくいること。

あなたが、あなたらしくいることに向き合うこと。

主演となる4人の女性たちをはじめとして演技経験のない俳優をキャストに迎えること。そして5時間17分の上映時間。本作『ハッピーアワー』が選択した例外的なスタイルは、日々のなかであらわれてはすぐに消えゆくような、一つの言葉・一つの感情には収まりきれない心の機微を映画のなかに発見させるよう私たちの視線を誘う。

有名俳優ではないが紛れもなく私たち観客に近い存在である4人の女性から発せられる小さなニュアンスを逃さぬようにカメラは彼女たちを眼差し続け、今まで見過ごされてきたかもしれないまるで彼女たち一人一人の声にならなかった声のような無数の情緒たちは体感時間に相似した時間経過のなかで緩やかに結びつきながら、あるがままの彼女たちの姿をそこに映し出す。

「わたしが、わたしらしくいること。あなたが、あなたらしくいることに向き合うこと」。ありのままの彼女たちを発見し、彼女たちに向き合う5時間17分が今スクリーンを越えて幸福な時間として溢れ出す。
(宮崎)

『知らない町』 公開記念特別インタビュー

6/11 (土) より渋谷シアター・イメージフォーラムにてレイトショー

幽霊の目撃談を呼び水にさまざまな謎が積み重なって、日常の底に沈んだ深層意識が画面に滲み出すような、異色の映画『知らない町』。第15回 TAMA NEW WAVE でゲスト審査員の西ヶ谷寿一プロデューサー（『ディストラクション・ベイビーズ』、『私の男』など）と日向朝子監督（『好きっていいなよ。』など）から絶賛され特別賞を受賞した本作の劇場公開を記念して、大内伸悟監督と出演者の細江祐子さん（中沢亮子役）にインタビューを行いました。

聞き手（実行委員：細川・松田・佐藤）

— 子どもの頃に見た幽霊と意識との矛盾をかたちにしたかった —

— 本作を撮ったきっかけは？

大内 子どもの頃に幽霊を見たことがあって。それを結構鮮明に覚えているんです。大人になった今は幽霊なんて存在しないと思っていて、どちらかというそれは人間心理状態が作る幻覚なのではないかと思っています。何の刷り込みもなく恐怖心を持っていない子供の頃に、祖母の家で青い顔で長い黒髪の白い服を着た女が扉の奥に立っていて、自分と目が合っていたという体験をしました。これは自分の中で強い記憶として残っています。あの時の確かな感覚とそんなものあるわけないという矛盾は何かを考える上で凄く魅力的なものでそれが構想の発端になっています。

— 非常にユニークな語り口の作品ですが、作品全体の構想は最初からできていたのですか？

大内 もちろん撮りたいものは最初からあったんですが、作品の撮影を3回に分けて、それも1年ごとに撮ったりしていたので、撮ってイメージが崩れて、また補正しないといけないという感じで。一番最初に撮ったときには、先が見えない感じはありましたね。

— 全体像が見えない中で撮影に臨まれたと思うのですが、そのような状況で役柄を演じるのはいかがでしたか？

細江 大内監督の映画に出演するのは初めてで、先が見えない状況は今思うと面白いけど、当時は大変でしたね。撮り始めてから時間が経っているので後から見ると自分も変わっている部分があって。眉毛とか体型とか（笑）。まとめて撮っていたら全然違うものになっていたと思います。揉めて揉めて出来上がったのが今のかたち。こういうオチになるとは最初は全く思わなかったです。

大内 自分のお金で撮っているから、1回撮ったらその後は猛スピードでお金を稼がないといけないので。どっぷりやることができないのもあって編集は1年くらいかけていましたね。前作の時に急いで作って後悔した部分があったので、今回はそうしなくて。

前作を作った後に、大学で映画のことについてまだ学んでいないことがあるなと思ってプロの現場に行くようにしたんです。そこで工程とか、現場の進め方を見ていました。大学在学中は、オリジナリティを追求することを学んでいた感じで。現場でカット割とか基礎的なところを学びました。



— カメラについてですが、手持ちのシーンが多いですね。

大内 カメラマンが 50 mm のレンズで撮るのをこだわっていて。人の目に近いんだそうです。観る人によって見方が変わる作品だと思っています。カメラが手持ちなのはそういう意図があります。無機的なものを出したくて、部屋のシーンは固定にしました。あそこを手持ちにすると意味が違ってしまおうと思ったので。

— 人物がいない風景が、普通の風景なのに異世界に見えるような感じがしました。

大内 大学時代からよく誰も映っていない風景を映画の中で好んで使っていました。当時から感覚的ではありますが予感や余韻のようなものを画の中に取り込むことを考えていました。カメラマンも同じ大学出身でその感覚を共有できる部分はあったと思います。本作でもそれを目指しました。

— 自分が小さい頃に見たことがあるような、怖いような何か惹き込まれる光景が映画で観られるというのが新鮮に感じました。

大内 言葉にできない感覚の部分を共有しながら作っているような作品になったと思います。

(* 本インタビューの詳細は映画祭 HP にて公開予定です) <http://www.tamaeiga.org/feature/>

【作品情報】

主人公は地図調査員の男。彼の住む部屋に、その部屋の“前の住人”だった女が当時同棲していたという男に会いに来てから幽霊騒ぎが起これ、段々と主人公が不思議な世界へと引き込まれていく。謎が幾重にも重なって、町や部屋、物に堆積した過去の時間が、主人公そして観客を“知らない町”へと導く。一般的なストーリーテリングから離れて不思議な世界が徐々に浸食する、未知の驚きと詩的な美しさを備えた作品。要チェック！

作品 HP : <http://unknownntown.com/>

2013 年 / カラー / 95 分 出演 : 柳沢茂樹 細江祐子 松浦祐也 富岡大地、ほか 製作・配給 : clown film

5月7日(土) 特別上映会レポート

エール!

ゴールデンウィーク明けに行われた今年第3回特別上映会は、フランス映画(日本語字幕版(劇場公開版))『エール!』を上映しました。フランス映画祭2015で最高賞の観客賞を受賞したこの作品は、聴覚障がいのある家族を描いた作品でもあることから、作品のなかに手話がたくさん盛り込まれています。当日は一般のお客様に加え、多摩市近隣の聴覚障がい者のみなさんにもたくさんご来場いただきました。

ご鑑賞後のお客様からは「一度観ていただけど、もう一度観たくてきました」「公開時に見逃していたので楽しみにしていました」「洋画だけでなく、邦画の字幕付きも上映してもらいたい」など、さまざまな嬉しいご感想をいただきました。



1回目の上映から最終回まで多くの方のご来場、本当にありがとうございました。最終回の上映後でも熱心にアンケートに記入してくださっているお客様の姿がとても印象的でした。

また、会場ではダウン症児と家族のアートサークル「ソレイユスリヤン」の絵画作品をパネルにしてご紹介しました。こちらも大変好評でした。

今回の上映会をきっかけとなって、さらに多くの方々がTAMA映画フォーラムの上映会、そして映画祭に来てくださると良いと願っています。(飯塚)

7月特別上映会
7/16(土)
ベルブホール

風の波紋

(小林 茂監督作品)

2015年/99分/カラー/日本



©カサマフィルム

次回上映作品は、新潟県の豪雪地帯・越後妻有（えちごつまり）の里山に暮らす人々を描いたドキュメンタリーです。木暮さんと草木染職人の松本さんをはじめ、都会から移住した人たちが手探りで自然とかかわりながら生活する様子や、さまざまな場面で住民が互いに協力する姿をとらえています。

東京から15年前に移住した木暮さん夫妻は、この集落で見よう見まねで田植えや茅葺きなどを行なってきました。そのようななか、2011年3月に新潟・長野県境地震が集落を襲い、自宅の古民家が全壊状態に。考えた末、木暮さんは自ら自宅を再建しようと決意します。本作では、個性豊かな仲間たちが四季折々の自然と付き合いながら助け合って生きる姿が丁寧に描かれています。

※詳細はホームページをご確認ください。



第26回映画祭
TAMA CINEMA FORUM

[2016/11/19(土)～11/27(日)]
開催予定!

第17回 TAMA NEW WAVE コンペティション作品募集中!

11月末の当映画祭で開催予定の、中・長編作品(30分以上100分以下)を対象としたTAMA NEW WAVE コンペティションの作品募集を開始しました。話題の映画作家を多数輩出し、近年では受賞作品がそのまま劇場公開されるなど、日本映画界の注目を集めているコンペティションです。本年度の募集締め切りは6/24(金)。詳細は公式サイト(<http://www.tamaeiga.org/>)の応募要項をご確認ください。たくさんのお応募をお待ちしております!

映画祭新実行委員を募集!

TAMA映画フォーラム実行委員会では、第26回映画祭TAMA CINEMA FORUMと一緒に作る実行委員を募集しています。企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか?

「上映プログラムを企画したい」、「イベント運営に興味がある」、「広報・宣伝をやりたい」など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

このたび6/19(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。

詳細はホームページ
<http://www.tamaeiga.org/> をご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会
(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①: 映画祭チラシ送付

特典②: 映画祭パンフレット贈呈

特典③: 特別上映会割引(当日チケットを、支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)